



これから求められる医療

医師 山口 貴也

日本の医療費はうなぎ昇りです。40兆円を超えています。日本の税収は50兆円強です。税金を自分の給料から獲られている人は税金の他に健康保険料が高くて嫌になるでしょう。そしてこれだけの金額をかけて日本人は健康で長生きしているのでしょうか？

日本の平均寿命は高い水準にあります。しかし平均寿命と健康寿命の間には隔たりがあります。日本人の平均寿命は平成26年の統計では男性は80・21歳、女性は86・61歳です。健康寿命は平成22年の統計で男性で70・42歳、女性で73・62歳です。これを比べると男性で10年弱、女性で13年弱も差があります。

健康寿命は2000年にWHOが提唱した概念で、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活出来る期間。」とされています。

脳梗塞や脳出血等で麻痺になった、心臓が悪くなり歩くのも大変になった、惚けてしまい介護が必要になった等々で日常生活を自立して送る事ができなくなると健康寿命を超えています。

びんびんころりを願って色々と言われていたりもいらっしやいますが今後も平均寿命と健康寿命の差は大きくなるでしょう。

先ほどの医療費には介護費用は含まれていません。健康寿命を超えた後、介護も必要になります。介護費は約9兆円です。

医療費と介護費用を合わせると49兆円、税収は50兆円強。ほぼ同じ額です。税収から医療費と介護費用を全て払う訳ではありませんが、酷い状況です。医療費や介護費は将来性のある出費ではありません。もしこの金額の半分でもクリーンエネルギーや環境対策に使う事ができれば日本の将来は開けるかもしれません。

この状況をみなさんどう考えるのでしょうか？今はまだ何とかお金が回っています。しかし世界にはギリシャのように年金や医療費を強制的に削減しなければいけない状況になるOECD加盟の先進国もあります。南米の国ではデフォルトを何度も起こしています。その度に公共サービスや年金、医療は切り捨てられます。日本は関係無いと思われるかもしれませんが、日本は戦後新円に切り替える時にお金の価値を切り下げています。今の異常な状況が続けていては国の借金を減らす為にインフレにしお金の価値を下げる事になるかもしれません。その時に自分が健康ではなかったらどうなるのでしょうか？家に介護の必要な人がいたらどうなるのでしょうか？

医療費圧縮の為に考えられる事は自己負担額の割合を増やす事、健康保険でまかなう医療を制限する事です。介護費用も同じですね。突然これまでの倍の値段に医療費がなったり、介護費用が増えたりしたらどうなるのでしょうか？ひょっと